

世界新発見の伊藤若冲の巻物「果蔬図巻（かそずかん）」が 福田美術館のコレクションに加わり、同館で記者発表会を実施 ～70代の若冲の稀有な彩色画を10月の特別展より一般公開～



福田美術館は、この度、ヨーロッパで新たに発見された伊藤若冲作の巻物「果蔬図巻」を、福田美術館が入手したことをご報告します。本作品は福田美術館の新たなコレクションとして、10月に開幕する展覧会「開館5周年記念：京都の嵐山に舞い降りた奇跡！伊藤若冲の激レアな巻物が世界初公開されるってマジ?!」にて一般公開する予定です。これに先駆けて3月5日（火）実施した記者発表では、世界で初めて「果蔬図巻」が報道関係者にお披露目されました。歴史的にも美術史的にも重要な出来事となったこの新発見に際して、福田美術館 学芸課長の岡田秀之は作品解説を交えながら「70代の若冲の彩色作品は数が少なく、画業を考える上でも大変意義がある」とコメントしました。また、日本美術史の第一人者である辻惟雄（つじのぶお）氏は「色の対比をきちんと考えた彩色が興味深い。初々しさを感じる」と評しています。



伊藤若冲「果蔬図巻」お披露目の様子

果蔬図巻とは

- **今まで発見されていなかった、若冲の絹本着色の図巻（縦30.5cm×横277.5cm）※**
- **制作年は1791年、若冲76歳の頃の作品** ※跋文部分(54.5cm)を加えると332.2cm
- **巻末に大典禅師の直筆の跋文（ばつぶん）が添えられている**

「果蔬図巻」は寛政3年（1791）、若冲が76歳の時に描かれた全長3m余りの大作で、若冲ならではの美しい色彩を用いて様々な野菜や果物が描かれた巻物です。若冲は本作を描いた翌年に「菜蟲譜（さいちゅうふ）」（佐野市立吉澤記念美術館所蔵・重要文化財）を描いており、両作品には描かれている野菜や彩色方法などに共通点が見られます。吉澤記念美術館学芸員の末武さとみ氏は、以下のように評しています。

- **描かれている野菜や果物（果蔬）の大部分は菜蟲譜と共通する。**
- **果蔬の並べ方、蔬菜のポーズ、彩色手法における違いと共通点が興味深い**
- **蟲がなく、蔬菜だけで構成されている点が、菜蟲譜の構成と特色を考える上で参考となる。**
- **梅莊顕常による跋文が、晩年の若冲と梅莊顕常・大坂との関係を考える上で大変貴重である。（なお菜蟲譜も大坂の文人の依頼で描かれている）**

名称	果蔬図巻	菜蟲譜
制作年	1791年	1792年
大きさ	30.5 × 332.2	31.8 × 1095
内容	果物と野菜	果物と野菜と虫、蛙等
発見年	2023年	1999年
若冲の年	76才の款記	77才の款記
着色	絹本着色	絹本着色
発見場所	ヨーロッパ	栃木県の旧家
跋文	梅莊顕常(大典)	細合半齋
題字	なし	福岡撫山
発注者	森玄郷	不明

※参考：「果蔬図巻」と「菜蟲譜」の比較

果蔬図巻（全図）

【作品データ】

作品名：伊藤若冲《蔬菜図巻》

制作年：1791年

サイズ：縦30.5cm×横277.5cm

梅莊頭常（大典）による直筆の跋文と巻物に描かれたモチーフ

梅莊頭常(大典)の跋文



約30年ほど前に若冲と共に浪花の森玄郷を訪れた事が書かれている

白文方印:「藤汝鈞印」

若冲の署名:「米斗翁行年七十六歳画」



朱文方印:「若冲居士」

美しい中間色



巻物の最後に書き添えられた跋文（ばつぶん）は、若冲と深い親交を持っていた、相国寺の僧・梅莊頭常（大典）（1719-1801）が直筆で書いており、果物や野菜の形を極め、色も備えた本作を絶賛していることが分かります。また、大阪の森玄郷という人物の依頼で制作したことや、若冲と共に森氏を訪れたのは30年前であること、森氏の亡き後、息子の嘉統から跋文の依頼を受けたことなども記載されており、かつて交流があった若冲に想いを馳せて絵の素晴らしさを述べている、貴重な資料となります。

描かれた野菜、果物は色づかみや配置にも独自の工夫が見られます。柿、苦瓜、林檎などのモチーフには中間色が用いられており、美しいグラデーションに仕上げられています。

福田美術館学芸課長 岡田秀之のコメント

「一つ一つ彩色が施された果物や野菜は、若冲の確かな観察眼と優れた描写力によって描かれている。70代の彩色された作品は数が少なく、しかも依頼主が確定する作品は極めて珍しい。若冲の画業を考える上でも大変意義深い作品である。」

伊藤若冲とは

江戸中期の画家。1716年京都生まれ、1800年没（85歳）。錦小路にあった青物問屋「枳屋」の長男として生まれた若冲は、40歳で家業を弟に託し、画業に専念する。細かなディテールまで丹念に描き込まれ、独自の色彩感覚で鮮やかに表現された着色画や大胆な構図などが特徴で、「奇想の絵師」とも評される。第二次世界大戦後、アメリカのコレクタージョー・プライスが築いたコレクションや、生誕200年を契機とした展覧会の開催などで平成以降に再評価され、「若冲ブーム」が生まれた。《動植綵絵》（三十幅）が国宝に、《鹿苑寺大書院障壁画》全50面、《菜蟲譜》などが重要文化財に指定されている。

本件に関するお問合せ ※学芸員へのご取材希望も承ります。

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中真衣（080-8866-6183）、樋口（080-9510-3751）

Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp